

第1章 新市の概況

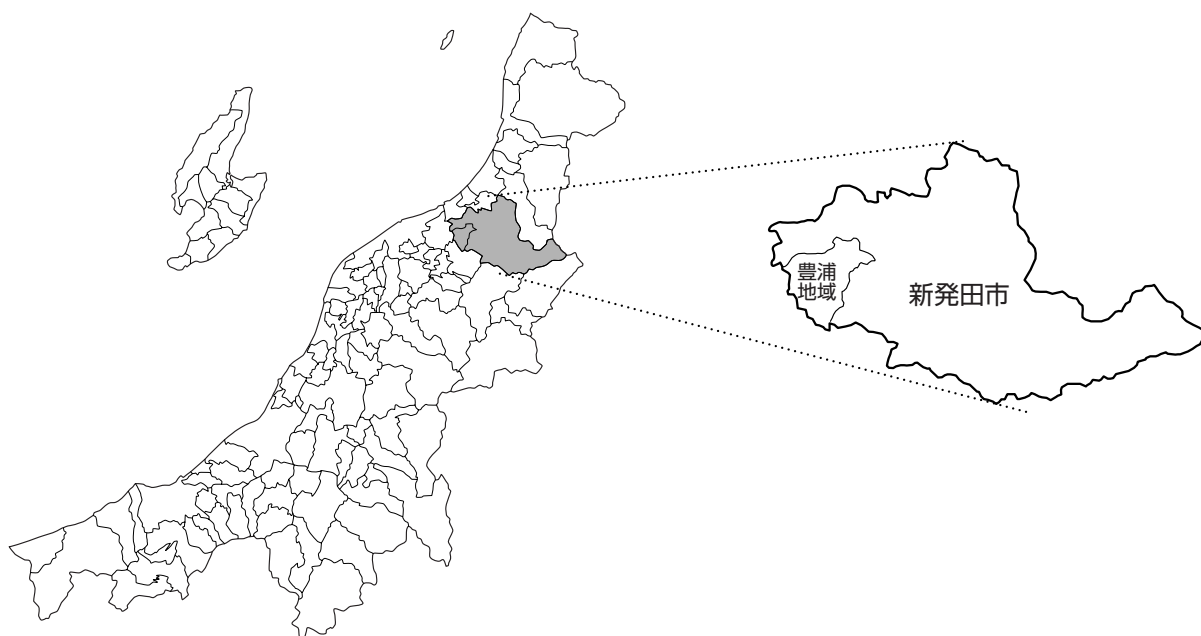
1 新市の概況

新市は、新潟県の北部に位置し、県庁所在地新潟市から北東に約30kmの距離にある。

面積の約7割は山林で、南東側の山岳部には自然景観に恵まれた磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園を有し、山麓から平野部にかけて豊かな水田が開けた県内有数の穀倉地帯で、良質米の産地である。

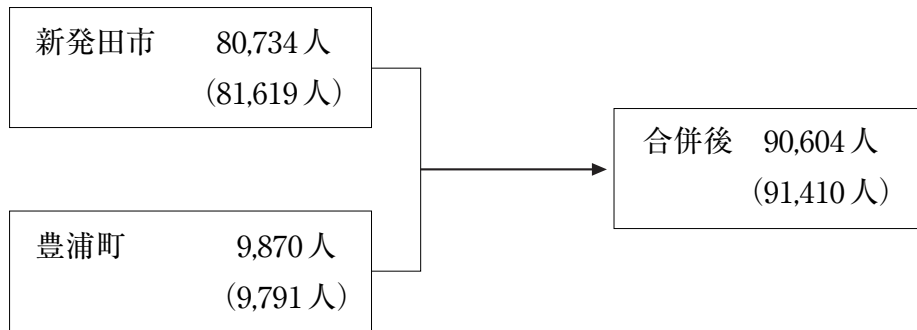
気候は、四季の変化がはっきりしており、日本海側の気候特性が顕著で12月から3月にかけて降雪がある。

市街地は、江戸時代に新発田藩の城下町として栄えた歴史を持つ地域を中心に、交通網の発達とあいまって、住宅地や商業地の開発・集積により都市化が進み、その区域は周辺部へと拡大している。

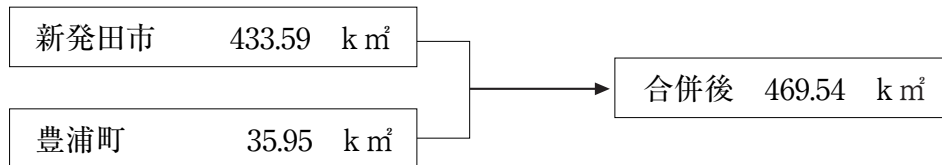


●位置（東経139度17分～139度37分、北緯37度49分～38度01分）

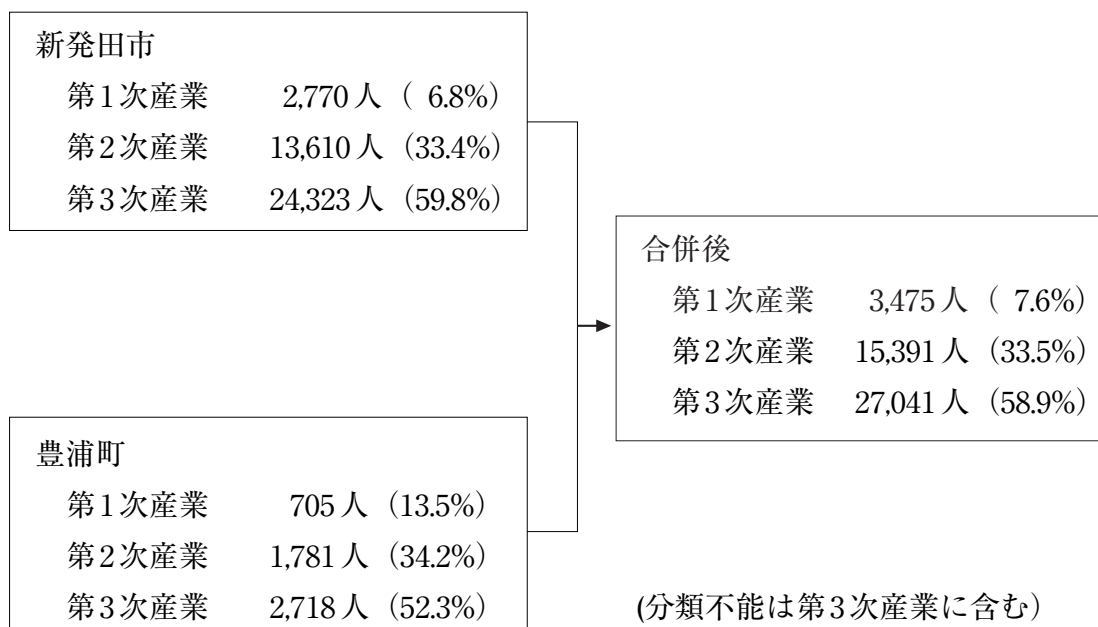
●人 口（上段は平成12年国勢調査、下段は合併時の住民基本台帳人口）



●面 積



●産業構造（平成12年国勢調査）



2 両市町の明治からの合併の沿革

明治22年に市制町村制が施行されて以来、いくたびかの合併を経て新発田市と豊浦町は誕生した。

新発田市は、昭和22年1月に市制を施行し、新潟県内6番目の市となった。その後、昭和30年代の、いわゆる「昭和の大合併」の際に周辺の村々を編入合併し、県北地方の中心都市となった。

一方豊浦町は、昭和30年に中浦村と本田村が合併し豊浦村となり、昭和48年11月に町制を施行した。



明治からの合併のあゆみ

